

多職種連携研修会（国の事業のカ）作業部会報告

| | | |
|-------|----------|--|
| 作業部会員 | 戸川 雅樹 | (吹田市医師会) |
| | 横山 正明 | (吹田市歯科医師会) |
| | 大森 万峰子 | (吹田市薬剤師会) |
| | 立山 裕代 | (やさしい手江坂居宅介護支援事業所) |
| | 永倉 恵子 | (TFS) |
| | 星 久美子 | (株式会社ハート介護サービス吹田支店) |
| | 上山 美紀 | (協和訪問看護ステーション) |
| | 寺阪 健一 | (特別養護老人ホームあす〜る吹田) |
| | 福田 智則 | (小規模多機能型居宅介護 ラ・ルーラ江坂) |
| | 齋藤 健治 | (市立吹田市民病院) |
| | 岡本 佳子 | (国立循環器病研究センター病院) |
| | 川端 一男 | (甲聖会記念病院) |
| | 濱本 利美 | (健康医療部地域医療推進室) |
| | 事務局 | 馬嶋 圭子 |
| 勇上 清子 | | (福祉部千里ニュータウン地域保健福祉センター) |
| 橋本 千晶 | | (豊津・江坂地域包括支援センター) |
| 宮岡 務 | | (認知症地域支援推進員) |
| 開催日時 | 第1回 | 平成29年 6月29日(木) 14時~16時 |
| | 臨時 | 平成29年 9月20日(水) 16時~17時 |
| | 臨時 | 平成29年11月16日(木) 13時~15時 |
| | 第2回 | 平成29年11月30日(木) 14時~16時 |
| | 臨時 | 平成30年 1月15日(月) 15時~17時 |
| | 多職種連携研修会 | 平成30年1月25日(木) 14時~16時30分 (千里市民センター大ホール) |
| | 第3回 | 平成30年 2月 8日(木) 14時~16時 |

1 目的

高齢者の在宅生活を支えるために、医療と介護が連携することで、質の高い支援を提供できる体制を構築するため、認知症支援が必要な事例を通して、地域の医療・介護関係者及び病院との相互理解と連携を深めることを目的に開催した。

2 研修会概要

- (1) テーマ「認知症高齢者への支援から地域の医療・介護関係者の連携について考える」

(2) 内容

ア 認知症初期集中支援チームの活動報告

報告者 認知症初期集中支援チーム員 三田駒子氏、小野政江氏

イ 認知症地域支援推進員の活動報告

報告者 認知症地域支援推進員 宮岡務氏

ウ 吹田オレンジノートの紹介

エ 認知症高齢者への支援の方法と対応策についてのグループワーク

オ 総評・講義「認知症支援で大切な事」

講師 浅香山病院 認知症疾患医療センター長 釜江和恵医師

(3) 参加人数 108名

(4) 参加者アンケートのまとめ

ア グループワーク

- ・グループを担当した作業部会員からは、どのグループも活発に意見が出ていた。事例で発表者が丁寧に説明しても実際にグループワークではテーマから話がそれてしまうことがしばしばあり、作業部会員が検討テーマを再度伝える場面があった。
- ・アンケートからは職種による支援の視点の違いや支援内容の違いを学べたという感想が多くあり、刺激になったとの感想もあった。自身が連携で何を求められ、相手は何が得意なのかという意識を再確認し、今後の支援に活かしていきたいとの意見もあった。
- ・認知症の方の多くが症状が進行してから周囲が気付くことが多いため、早期から関われる様、地域住民からの情報などが大事と思ったとの意見もあった。

イ 講義

- ・認知症を正しく理解する上で他の疾患との区別をするためにも、難病や精神保健福祉法等についても学習する必要性を知ったとの意見があった。

(5) 成果

ア ねらい

多職種連携の必要性・重要性の理解と実践の裾野を広げるためには、初めての参加者を増やすことが課題であった。今年度は案内時にこのことを強調したことで、約半数が今年度の多職種連携研修が初参加であった。

イ テーマ

平成25年度からの開催において、テーマを「認知症」「看取り」「退院時」の順番で取り組んできた。次年度は「看取り」について行う。このテーマを取り上げる。

希望のテーマをアンケートで聞いたところ上記3つ以外にも希望のテーマがあった。今後の情勢に合わせてテーマは検討していく必要も出てくると思われる。

(6) 次年度の開催予定 平成30年度研修会開催は平成31年1月24日(木) 予定

1 回答状況

| | |
|------|-----|
| 出席者数 | 108 |
| 回答者数 | 86 |
| 回答率 | 80% |

← 作業部会員15名含む

2 回答者職種

| 職種 | 回答者数 | 割合 |
|-------------------|------|--------|
| 医師 | 6 | 7.0% |
| 歯科医師 | 5 | 5.8% |
| 薬剤師 | 11 | 12.8% |
| 看護師 | 12 | 14.0% |
| 歯科衛生士 | 5 | 5.8% |
| 理学療法士 | 0 | 0.0% |
| 作業療法士 | 1 | 1.2% |
| 言語聴覚士 | 0 | 0.0% |
| 栄養士 | 0 | 0.0% |
| 保健師 | 2 | 2.3% |
| 医療ソーシャルワーカー | 8 | 9.3% |
| (主任)介護支援専門員 | 16 | 18.6% |
| (主任)介護支援専門員+歯科衛生士 | 1 | 1.2% |
| (主任)介護支援専門員+介護福祉士 | 1 | 1.2% |
| 介護福祉士(訪問支援員) | 8 | 9.3% |
| 社会福祉士 | 4 | 4.7% |
| 精神保健福祉士 | 1 | 1.2% |
| 事務職 | 0 | 0.0% |
| その他 | 5 | 5.8% |
| 未記入 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 86 | 100.0% |

3 認知症初期集中チームの役割について

| 所属 | 1 よく理解できた | 2 まあまあ理解できた | 3 知っている内容だった | 未記入 |
|----|--------------|----------------|-----------------|------|
| 合計 | 59.3% | 33.7% | 7.0% | 0.0% |

4 認知症地域支援推進員の役割について

| 所属 | 1 よく理解できた | 2 まあまあ理解できた | 3 知っている内容だった | 未記入 |
|----|--------------|----------------|-----------------|-----------|
| 合計 | 47 54.7% | 33 38.4% | 6 7.0% | 0 0.0% |

5 吹田オレンジノートは活用できるか

| 所属 | 1 活用できる | 2 あまり活用できそうにない | 3 活用は難しい | 未記入 |
|----|-------------|-------------------|-------------|-----------|
| 合計 | 38 44.2% | 31 36.0% | 10 11.6% | 7 8.1% |

6 GWの内容を今後の認知症支援に活用できるか

| 所属 | 1 活用できる | 2 少し活用できる | 3 あまり活用できない | 4 活用できない | 未記入 |
|----|-------------|--------------|----------------|-------------|-----------|
| 合計 | 52 60.5% | 30 34.9% | 2 2.3% | 1 1.2% | 1 1.2% |

7 医療と介護の連携について、現状をどのように感じているか

| 所属 | 十分満足 | まあ満足 | わからない | やや不満 | 不満 | 未記入 |
|----|------|-------|-------|-------|------|------|
| 合計 | 6 | 43 | 15 | 18 | 2 | 2 |
| | 7.0% | 50.0% | 17.4% | 20.9% | 2.3% | 2.3% |

8 活動目標にしたいことはあるか

| 所属 | 1 ある | 2 ない | 未記入 |
|----|---------|---------|-------|
| 合計 | 67 | 5 | 14 |
| | 77.9% | 5.8% | 16.3% |

9 (前回以前の参加者)多職種連携に研修会に参加されて以降、業務で連携が取りやすくなったなどの違いはあるか

| 所属 | 1 かなり連携しやすくなった | 2 少し連携しやすくなった | 3 特に変わらない | 未記入 |
|----|-------------------|------------------|--------------|-------|
| 合計 | 11 | 28 | 5 | 42 |
| | 12.8% | 32.6% | 5.8% | 48.8% |

10 希望されるテーマ

| 職種 | テーマ |
|-------------|---|
| 医師 | 地域住民への情宣の増強(「医療介護の資源を知ってもらう」など) |
| 医師 | 独居関連 |
| 医師 | 特になし。 |
| 看護師 | チームSTEPPSを用いた多職種連携。平成29年度、摂津市で同様の研修がありました。チームSTEPPS推進委員会、講師を依頼することができますので一度ご検討下さい。(津雲台7丁目5-11 ケアーズリハビリ訪問看護ステーション千里 土屋友香、06-6872-2001) |
| 看護師 | 病院につながっていない。地域で困ったケース。 |
| 看護師 | 今後、吹田市医師会または在宅医の先生が介護とどう連携をとりたいか知りたい。又、今後どうして行きたいと思っているか聞きたい。医師会が率先して在宅へ興味をもっている所は活気があります。 |
| 歯科衛生士 | 難病患者さんの対応について。 |
| 歯科衛生士 | グループワークは必要だと思います。 |
| 歯科衛生士 | ターミナル(看取りの方)の方に何が出来るか？ |
| 保健師 | 各専門職の得意分野、業務内容 |
| 医療ソーシャルワーカー | 地域包括ケアシステムについて |
| (主任)介護支援専門員 | 連携で困ったこととその対処法を公表してほしい。 |
| (主任)介護支援専門員 | 高次脳機能障害 |
| 介護福祉士 | 自立支援型マネジメント |
| その他 | 認知症の人の受診がスムーズにできる方法等があったら教えてほしい。往診してくれる精神科も教えてほしい。 |